

令和5年度 市長と語るまちづくり懇談会（若者世代）会議録

日 時：令和5年7月27日（木）午後7時から午後8時30分まで

場 所：周南市役所 シビック交流センター 交流室1

テーマ：「住み続けたいくなるまち」にするには

出席者：周南市長 周南市の事業所で働く若者

シティネットワーク推進部（部長、市民の声を聞く課長） ほか

1 懇談会の流れ

- (1) 開会
- (2) 懇談
- (3) 閉会

2 懇談の内容

【周南市の魅力】

- 徳山駅が栄えていて交通の便がいい。
- 東西南北に広く、土地ごとに色々な特色を持っている市だと思う。山や海などの自然が豊かで、工場夜景も他市にはない魅力である。
- 地元の食材は美味しい。飲食店が数多くある。
- 身近に海がある。新幹線が停車する駅がある。
- 地元の人が優しい。
- コンビナート（全国的にも重要な場所）があることは自慢できる。
- 以前は海外に住んでいたが、周南市はまちなかを警察官が見回りをしているなど、治安が良く、安心して暮らせる。

【周南市に感じる不満な点】

- 若者が遊ぶ場が少ない。隣町まで車で遊びに行くことが多い。
- 山道の幅が狭い。
- 道路照明灯が少ない場所が多く危険と感じる。夜道を歩くのが怖いこともある。

〈市長のコメント〉

もっともっといいところはあるということを言いたい。山があり海があり工場がありそこに住む人がとても優しくていいまちだと思う。工場夜景のことも出たが、ライトの数だけ働いている人がいると聞いてから、一生懸命頑張っている人たちに感謝をしながら夜景を眺めている。若者が遊びに行く場所がないという意見も出たが、周南のまちはたくさんの先人によって整備されている。文化会館、動物園、美術博物館、港、新幹線の停まる駅、周南コンビナート、ボートレース徳山、緑地公園、徳山高等専門学校、周南公立大学がある。街路樹のある通りだけでも整備された素敵なまちだと思う。ずっと住んでいるとあたりまえになってしまうが、少し離れてみると地方の土地でありながらこれだけ揃っているまちに魅力を感じていただけたと思う。

【若者がなぜ市外、県外に出ていくのか】

- 若者が生きづらい世の中（税金が高い等）であり、どこに住んでも同じである。だから、一ヶ所（地元）に留まる理由はない。
- 都会に比べて働く場所が少ない。
- 若い時にしかチャレンジできないことがあるので、市外県外に行くのだと思う。
- 市内で買い物できる場所や継続的・専門的に学べる場所が少ない。
- 大学等で学んだ知識を活かす仕事（場）が少ない。
- 都会と比べて給料が少ない。
- 給料があってもしんどいと働かないということもある。工場勤務の多い山口県は、その傾向もあるのではないかと思う。
- とりあえず実家を出てみたかった。色々な地域を見たかった。
- 一度地元を離れてまた戻ってくる理由は、会いたい人がいるかどうかだと思う。
- 進学で県外の大学に行き、その土地で就職する人が多い。
- 友達が市外県外に出る人が多く、自分も新しい刺激を求めて外に挑戦してみたかった。

〈市長のコメント〉

日本全体で2020年に1億2600万人の人口が2070年には8700万人になると発表された。山口県はおよそ日本全体の100分の1なので134万人が87万人になる。そのまた10分の1が周南市で13万8千人が8万7千人になる。自然減と社会減の両方を考慮してこの数字になる。このようなデータからいっても、周南市が合併した時の15万8千人に戻すのは難しいことが分かる。人口が減っていく中であっても、まちをつくっていかないといけないと思っている。

【人口減少をどう受け止めているのか】

- 高齢化が進んでいくと、人口が減るのは仕方ないと思っている。
- 全国に先駆けた大胆な子育て支援（子育てに関することは全て無料にするなど）を行ったらどうか。思い切った政策が周南市を知ってもらおうきっかけになると思う。

【なぜこのまちに就職したのか】

- 友達や家族がいるから。
- 家族との時間を大事にしたかったから。
- チャレンジが得意ではないから。
- 地元を盛り上げたかったから。
- 本当は市外県外に出たかったけど、出られなかったから。

〈市長のコメント〉

私は広島に7年ほど出ていたけれど、このまちが好きだから戻ってきた。一度このまちを離れても家族を大事にしたい、地元を盛り上げたいという気持ちがあれば戻ってきてくれるのかなと思った。

【結婚についての考え】

(結婚したい)

- 結婚したいし、子どもも2～3人は欲しい。
- 友達の子どもやSNSに掲載されている子どもを見ると、羨ましいと思う。
- 前は結婚したくない派だったけど、最近は独りだと寂しいから、結婚して家族をもちたいと思うようになった。

(結婚はしたいが…)

- 仕事と家庭の両立に不安がある。経済面も不安である。
- あまりイメージが湧いていない。
- 金銭面の不安がある。出会いの場が少ない。
- いずれは結婚したいと思うが、そのために具体的に何をすればいいかわからない。若者はインターネットから情報を得ることが多い。ネット上では、結婚したことへの不満がたくさん掲載されているため、どうしても結婚に対してネガティブな感情が残ってしまう。結婚でなくても、相棒と呼べる存在がそばにいれば足りる気がする。
- 子どもができた時のことを考えると、経済面で生活していけるか、出産後に元の仕事に戻れるか、仕事をしている間に子どもの面倒をみてくれる人がいるか、産婦人科・小児科が十分にあるかなど、不安なことが多い。

(結婚したくない)

- 今まで、生涯を一緒に過ごしたいと思える人に出会ったことがない。子どもも欲しくない。

〈市長のコメント〉

2070年にちょうど皆さんは私くらいの年齢になるので、しっかり生きてほしいと思う。そう考えた時に、結婚したいとか子どもをいっぱい産みたいという声があがるとすごく嬉しい。将来の日本をつくっていく皆さんへ私からメッセージを送るのであれば、「結婚すると楽しいよ」ということ。結婚は楽しいということを送らなければならない立場だと思った。結婚すると悲しみは半分になるし、楽しいことは倍になる。結婚して好きな人がそばにいることはとてもいい。結婚に対する不安の声もあったが、行政は皆さんが結婚したり子育てをしたりする時に応援をしてくれる。色々な考え方があるので結婚してください、子どもを産みなさいとは言えないが、結婚すると楽しいということは伝えたい。

【周南市が住み続けたいまちになるためには】

- 仕事以外で同じ世代が集まれる場があると良い。
- 会いたい人がいる、大事な人がいる所に人は残ると思う。周南市は、働く場所もあり、交通の便も良い。仕事以外で人と出会えるコミュニティの場があればなお良い。
- 若者が集まれる場、出会いの場が増えるといいと思う。今回は会社から声がかかってこの場にきたが、出会いの場に自ら行くことができない人にとっては、半ば強制的な参加というのでもいいのではないかと思う。行動拠点として周南市を選んでもらえる環境づくりが必

要である。子育て支援を思い切って無償化したら周南市をアピールできると思う。

- まちの良い部分を守りながらも、駅前再開発等で刺激を与えてくれると良い。
- 車を持っていないと不便なところがあるので、バスや電車の便を増やしてほしい。
- 一回、他県に出て生活することで、改めて、住み慣れた地元の良さに気が付くのではないか。
- まちとして後退せずに少しずつでも進歩し続けていたら、自然に住み続けたいと思えるのではないかと思う。
- 若者たちが思っていることを上の世代を伝えられるような場を設けたいと思った。若者の意見が取り入れられるために、集まって話せるような機会を設けたい。
- 他県に住んだ経験があり、外からの視点があったからこそ、地元のために働こうと思った。同世代のコミュニティが少ないため、若者同士が話し合える場が大切である。

<市長のコメント>

このような場があってよかったという声が聞けて嬉しく思う。若い人はもっと色々な方と接していて、出会いの場ももっているのだと思っていた。こういう会を継続してやっていくのも面白いし、こういう機会をいくつも作っていくことが元気なまちをつくっていく第一歩だと改めて感じた。

若者たちが思っていることを言える場があるといい。まちは自分たちでつくるもの。せっかく素晴らしい意見をもっているのに、是非、意見を言える場に出て行ってほしい。政治もその中のひとつかもしれない。市議会議員になってこのまちを変えろという勢いを持って発言してほしい。人がいなければまちは成り立たない。やりたいことを実現できるまちを目指して、私も行政の長として、その後押しを全面的にしていきたいと思う。しっかり応援していくので色々な意見を伝えること、話すこと、実現に向けて努力することをみんなでやってけたらと思う。